

平成24年8月13日

熊本市長 幸山政史 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島 康

連絡先 熊本市中央区島崎4丁目5-13

電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

立野ダム促進陳情への抗議文

貴職は7月20日、東京において国土交通省、農林水産省等に対し、「平成24年7月九州北部豪雨に係る災害復旧に関する緊急要望」を行いました。今回の豪雨災害について国に対し早急に要望を上げられたことを高く評価するのですが、その中で「立野ダム建設事業の促進」を要望されたことに対し、強く抗議します。

私ども「立野ダムによらない自然と生活を守る会」では、今回の7・12洪水の災害当日以降、白川流域の被災現場や水害痕跡を調査・検証しました。7月17日に「2012年7月12日洪水の検証と今後求められる災害対策」と題したレポートを貴職あてに送付し、7月26日には要望書を提出しました（都市建設局対応）。今回の熊本市の白川の氾濫箇所は全て、河川整備計画で定められた河川改修が未完成の箇所ばかりであることは、先日の要望書で述べたとおりです。

今回の7・12豪雨のような想定以上の洪水では立野ダム湖は満水になり、立野ダムは「洪水調節ダム」として機能しなくなります。

立野ダムの水位低減効果は、最大で約20cmと推計されることや、ゲートのない「穴あきダム（流水型ダム）」である立野ダムが洪水調節をする場合、洪水調節する時期と、洪水のピーク時が一致するとは限らず、むしろ一致しない場合が多いと考えられることは、これまで述べてきたとおりです。

洪水時の白川の水は多くの火山灰を含むことはご存じのことと思います。ダムへの堆砂は、ダムサイトのはるか上流の、ダム湖の上流端付近、つまり土砂を含んだ洪水の流速が低下する場所に発生します。ダムの下部に「穴」が開いていたとしても、洪水時に上流から流れてきた岩石や土砂、火山灰で立野ダムが埋まってしまうことが容易に考えられます。

一辺が5m、長さ約80mの立野ダムの3つの「穴」が、岩石や土砂で埋まってしまうことも容易に考えられます。

今回の豪雨災害で求められていることは、流域の河川改修です。白川の治水に立野ダムが必要と考えられた根拠を明確にご説明いただきたい。

今後は流域全体で河川改修を進め、黒川の遊水地群を充実させるとともに、土砂災害の要因となっている放置人工林の整備（間伐）や、阿蘇の草原の保全を進めるなど、流域全体を見据えた災害対策を進めていくべきです。立野ダムに頼っている現行の白川の河川整備計画は、早急に改める必要があります。貴職が今回、国に対して「立野ダム建設事業の促進」を要望されたことに強く抗議するものです。

以上